

▶特集 環境の美化を考える — 2~7

- ▶喜びの叙勲・表彰 — 8・9
- ▶市美術展入賞者 — 10
- ▶税に関する作文・標語 — 11
- ▶雪シンポジウム — 12・13
- ▶市民のページ — 14・15
- ▶スポットNEWS — 16・17
- ▶お知らせ・インフォメーション — 18・19



第2回クリーン作戦

～ あいにくの天気、
ガスのかかる魚沼スカイラインで黙々と～

第2回十日町クリーン作戦が10月25日(土)、魚沼スカイラインの各展望台で行われました。今回のクリーン作戦は、紅葉の魚沼スカイラインをドライブとウォーキングで行おうというものでした。しかし、当日は今にも泣き出しそうなあいにくの天気となり、ウォーキングは中止。ガスがかかって視界がきかない中、それでも参加した約60人の人たちは、ごみ袋を片手に黙々とごみを拾いました。2ページからの特集記事にも書きましたが、捨てる人にしてみれば捨てる人への反論を、こんな姿の中から見てほしいのではないのでしょうか。



作業終了後のごみ分別クイズ (賞品は花袋)

今、あなたのマナーが 問われています

こんな光景、心当たりありませんか。「空き缶、
空きびん、たばこの吸い殻、ガムのかみかす、そ
の他の廃棄物を道路、公園など公共の場所や他人
の所有、占有または管理する場所に捨ててはなら
ない」これは、今年の4月に施行された「十日町
市住みよい環境づくり条例」第10条の条文です。

また、20条では、「環境の保全上必要があると認
めた場合、市長は指導または勧告することができ
る」とし、さらに「勧告に従わない場合、住所や
氏名（法人の場合は法人名）を掲示や市報に掲載
することにより公表する」としています。公表す
る必要がある、特に悪質な例はまれなのでしょう
が、道路・公園などへの空き缶のポイ捨て、なに
げないたばこの吸い殻の投げ捨てなどは日常茶飯
事なのではないでしょうか。

特集

ポイ捨て禁止条例設置6か月

環境の美化を考える

食べる物にさえ困った50年前には、考えられなかった光景でしょう。ポイ捨ては個人のマナーの問題ですからすべての人とは言いませんが、こんな行為をする人たちは豊かな経済社会とあり余る物質を享受したと同時に、人間として持たなければならぬ良心を捨てたといわざるを得ません。そして、マナーを守らずポイ捨てを続ける人がいる反面、ふるさと十日町を愛し、この行為に反論する代わりに、清掃活動や花づくりなどによる環境美化運動を黙々と続けている人たちがいます。昨年来、当間高原リゾートのオープンや「ほくほく線」の開通で、県内外から十日町を訪れる人たちが増えています。来訪者の目に、十日町はどのように映るのでしょうか。今回の特集は座談会を中心に、どのようにしてら愛すべき十日町を清潔で美しい町にできるかを考えます。

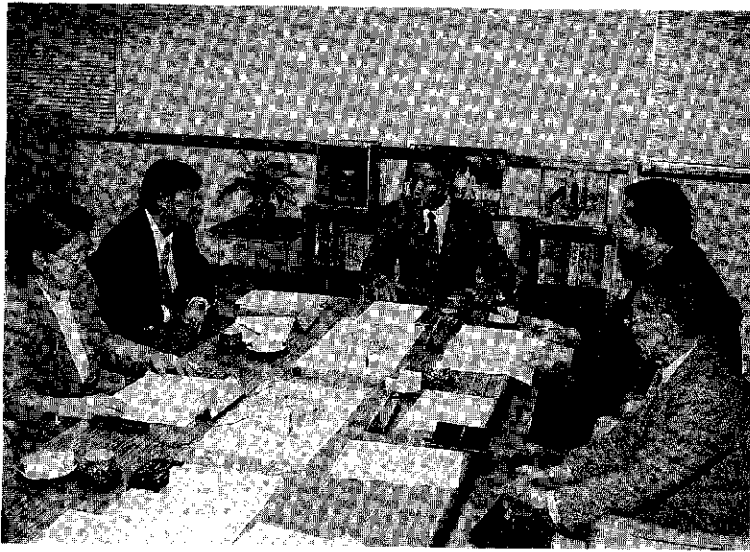
座

談

会

環境美化に取り組む 人たちに聞く

―その現状と課題―



向かって右から岡村常吉さん（市老人クラブ連合会厚生部副部長）、村山真さん（住みよい郷土建設協会十日町支部推進委員）、本田市市長、太田祐治さん（水沢商工会青年部長）、高橋ヨシ子さん（十日町市農業協同組合女性部長）



本田市市長

司会（大島市民生活課長）：今日の座談会は、私たちの郷土・十日町市をよりいっそう清潔で美しい町にするために、市民の皆さん、団体、企業、そして行政がそれぞれ何をやったらいいのか、今後どのようにしていくべきなのかについて話し合ってください。具体的には「ポイ捨て禁止」、「花いっぱい運動」による環境の美化・町の景観づくりについての二本柱で話を進めます。

最初に話し合いの土台を作るという意味で、市長から4月1日に施行された、いわゆる「ポイ捨て禁止条例」を含め、現在市が取り組んでいることについて話していただきます。

市長：市にはもともと「環境保全条例」がありました。この条例に、いわゆる「ポイ捨て禁止」の内容を含め、新たに「十日町市住みよい環境づくり条例」として施行したものです。また、できるだけ広範囲に運動を進めたほうがより効果的との考えから、広域圏の町村（川西町、津南町、中里村、松代町、松之山町）にも呼びかけました。



服部紀代子さん
（笹之沢・39歳）

中には排便の残骸も

笹之沢では4月、12月の初めころまで、毎月10日前後に各家庭が順番で国道253号のごみ拾いをやっています。また、八箇地区全体では各集落割り当て制で、八箇トンネルの十日町側の休憩スペースのごみ拾いを行っています。さらに、学校関係でも八箇小学校が年2回のクリーン作戦を、南中学校八箇校区のPTAが昨年から樹木・八箇時間のごみ拾いを始めました。

捨てられているのはタバコの吸い殻、空き缶、コンビニなどのお弁当の空き容器、雑誌類など多種多様です。特に休憩スペースにはお弁当の空き容器や空き缶、雑誌類が多いですね。中には排便の残骸や毛布、自動車、バイクの部品なども捨てられています。

テレビで見ただけですけど、東京のある市では、何回捨てたっ罰金なんていう所もあるみたいですね。ここまでひどいと、ちょっと考えたほうがいいかな、なんて思います。



村山 真さん
(土市3・55歳)

市では昨年、当間高原リゾートがオープン、また今春には「ほくほく線」が開通しました。現在の入り込み客は約30万人、5年後は56万人、10年後には90万人になるだろうと推計しています。もともと十日町市は観光地でないため、人をもてなすという点で遅れています。いつも例にあがるのが野沢温泉で、知らない人でもあいさつを交わすなど、「もてなしの心」が行き届いています。今後、市でもそういうことが大切になってくるはず。ポイ捨てを禁止し、町を美しくしていこうというものは、この「もてなしの心」につながるものだと考えています。

しかし、ポイ捨ては個人のマナーの問題で、一人ひとりの日ごろの心がけです。今年の春には信濃川の河川敷を中心に、市内数箇所で一斉ごみ拾いを行いました。これには「ポイ捨て禁止」を市民の皆さんにPRしようという目的があります。

まだまだ不足の部分がいくつかあるという指摘も聞いていますので、今日は皆さんからいろいろな声を聞かせていただきます。

ポイ捨ての現状と 様々な取り組み

村山・私は「住み良い郷土建設協会」に入っています。12、13年前でしようか春秋2回、環境パトロールと称して国道の休憩所のごみ拾いをする。軽トラックが途中で満杯になり、一度霧谷の埋め立て地に捨てに行かなければならなかったんです。でも最近は改善されたと思います。軽トラック一杯どころか、軽く半分くらいで帰れます。

行政の努力や一人ひとりの意識改善もさることながら、休憩所が整備されきれいになったことに起因しているのだと思います。環境が整えば「捨てる」という意識がだんだんなくなるのかもしれない。太田島のパークینگも「ごみ箱」がなくなり、逆にきれいになったような気がします。

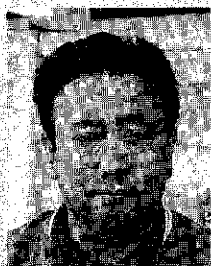
昭和39年に老人クラブができたのですが、このときから神社や観音様の清掃を行っていたという記録があります。昔の話になりますが、私たちが小学校のころは上級生が先頭に立って、日曜ごとに神社や道路の清掃をやったものです。最近の小学生はそんなことはしません。やっぱり子供のころからのしつけが大切なんだと思います。

また、高山太子堂線の両側は草がすごいんです。ごみ拾いに回ると、あのあたりが一番ひどいですね。草で投げた物が目立たないから投げやすいんじゃないでしょうか。草刈りをきちんとすれば結構少なくなると思います。

高橋・私の住んでいる伊達地区には、ゴルフ場があります。その道路脇に空き缶が捨ててあるんですよ。山菜採りなどで山に来た人が捨てるのだと思います。老人クラブの人たちが春秋拾ってくださいますが、なかなか大変なんですよね。

それに、入間川が伊達地区の上にありますのでしよう。ほ場整備された川に空き缶が流れてきて、分かれ目にあるマンホールにひっかかっているんです。「やだね、いつも空き缶が流れてきて」と話しているんです。私も田舎に行つたときは必ず拾って帰るんですが、洗って砂を出すのも大変ですし、そういうものは資源ごみに出せないのです、危険物の方に出しています。

最近、自動販売機で缶ジュースが簡単に買えますよね。これがあるから投げるのかななんて思います。徹底して空き缶を道端や川に投げ捨てないよ



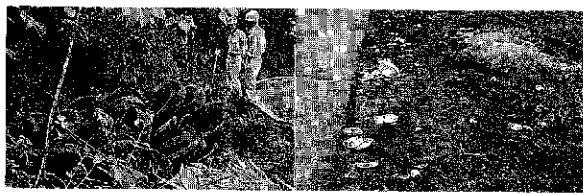
太田 義秋さん
(四日町新田3・42歳)

携帯用灰皿を忘れずに

中条地区酒小売組合(14店舗)で5年ほど前から春秋、中条病院前、三坂トンネルまでの国道252号線の空き缶やごみ拾いをしたり、休憩スペースなどに「ポイ捨て禁止看板」を設置したりしています。また昨年からです。たばこ販売組合の中条・下条地区組合員(30人)で、春は国道252号、夏は神宮寺、秋には下条中央公園下の神明神社境内のごみ拾いを始めました。

私たち小売団体がこのような活動を行っているのは、ポイ捨ての原因になる商品を売っているから、少しでも協力できればとの考えからです。ポイ捨てが特にひどいのは、国道252号ですね。空き缶なんかより弁当くずが多いですよ。人家が少なく、人の目を気にせずに捨てられるからなんですよ。

タバコを吸う人は携帯用の灰皿を必ず持つ、分別が大変でしょうが国道の休憩スペースには、やはりごみ箱があったほうがいいような気がします。



うお願いしたいですね。

司会：ありがとうございます。市長の話を受けて、皆さん方全員から「ポイ捨て」の現状や活動などをお話していただきました。

岡村さんの発言の中に、ポイ捨てをなくすために道路脇の草刈りが必要とありました。この点について市長はどのようにお考えですか。

市長：草で見えなくなる所はどうしても投げられやすい。これは人間の心理で、きれいになれば少なくなると思いますが、しかし、草刈りなどは行政の守備範囲・個人の守備範囲があるわけで、相互にやれる部分をきちんとしていかなければならないと考えています。

村山さんの話で、ごみ箱がなくなったら逆にきれいになったということですが、できるだけ捨てにくくするためには、きれいにするほかに何か考えられることがあるでしょうか。

太田：ごみを捨てる捨てないは個人個人の良識です。最近、公園とかではごみ箱を廃止するところが多くなっていますよね。ごみは持ち帰りましょうということですね。やっぱりごみ箱があれば、私も持って帰るのは面倒だから捨ててしまおうと思います。なければ持って帰りますからね。

太田島のパークキングでは、どれくらいのサイクルか分かりませんが、小学生が清掃をやってくれています。市長：八箇地区でも小学校が中心になつてごみ拾いをしていますね。

村山：当時の校長先生が火付け役でした。暇な時という大変なんです、

バイクで地域を回りごみを拾っています。それを見て、子供たちや地域の人たちに火が付いていったんですね。現在では、モデル美化地域に指定されています。

最高の対策は 子供のころからの教育か

市長：ごみの問題やリサイクルの推進にはいろいろあります。私が市長会などで話をさせてもらっているのは、要は発生源を抑えなければ増えるばかりだということです。川上と川下の表現で、川上がそれを抑えなければ川下は大きくなるばかり、それを処理するのは大変なことなんです。

村山：今日ここに来るとき、土市から車で両側を見してきました。見落としてもあるとは思いますが、空き缶など1個も見ないんですね。10年前なら絶対にあつたはずですね。

高橋：道路が良くなったせいなのではない。逆に農道などに見られます。村山：いわゆる裏道に移動していった

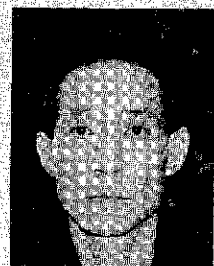


高橋ヨシ典さん
(伊達1・68歳)

んですね。今年も市では骨を折ったと思うんですが、古タイヤの不法投棄がありました。昔は魚沼スカイラインに、家一軒分のごみが捨ててあつたなんてこともありました。結局だれだか分からず、市が大変なお金をかけて回収しましたよね。国道の脇がきれいになった反面、見えない所にごみが回っているような気がします。

岡村さんが話していましたが、私も子供のころからの教育が大切だと思います。新聞で読んだのですが、小学5年生を夏休みの体験学習にかでごみ収集車に乗せ、収集の体験をさせたらしいんですね。そうしたら、その大変さを子供たちも実感したというものでした。4年生の社会科の授業に環境問題というのがあり、授業でごみステーションに来て、何か書いていくのを見かけます。そのへんをもう少し利用してもらいたいですね。

岡村：高校生が通学途中にセブイン・ブンなどで買ったものを、歩きながら飲んだり食べたりしているのを見ます。そのごみを林の中に投げて行くんです。



村山徳一さん
(水口・47歳)

願いは美しい環境

マナーの悪いドライバーが捨て去るごみを、そこに住むお年寄りたちが後始末する。新潟方面からの入り口、新光寺にある国道の休憩所では、こんな光景が毎月繰り返されています。

こんな状態を見かね、せめて我々にできる何かをということ。下条地区の青少年育成会、社会福祉会環境部会などが支援して、子供会による立て看板の作成を始めた。

たかが看板1枚で捨てられるごみがなくなるとは思っています。しかし、この場所でごみが減らなくても、この看板を自らの手で作り上げた子供たちは、将来公共の場所に平気でごみをまき散らかすような大人になるはずは絶対にありません。こんな子供たちの小さな願いと呼びかけが大きな輪になり、雪と緑の美しい我がふるさとを願ってもきれいだあることを願ひ、今後もこの地道な活動を続けていきたいと考えています。



もつと学校で、生徒たちへの教育を徹底していただければ、環境美化につながるんじゃないかと思っています。

市長・私も子供のころからの教育は大切だと思います。市でも、条例制定を契機に「こどもエコクラブ」という、環境庁の事業に取り組みました。これは子供たちに環境の大切さを知ってもらい、物を大切に作る気持ちを持ってもらおうという事業です。先日クラブの立ち上げを行い、35人ほどのメンバーで新潟自然科学館に行ってきました。

子供たちは理解が早いですね。自然環境を大切にしようという心を持った子供たちが大人になり、自分の子供をしつける、そんな循環が大切だと思います。こんな事業に、市としても力を入れたいと考えています。

もてなしの心で
花いっぱい運動

司会：ポイ捨ての話も尽きないわけですが、このへんで環境美化のもう一本の柱「花いっぱい運動」の話に移らせ



太田 祐治さん
(馬場2・36歳)

てもらいます。

市長をトップに、皆さんが日ごろ行っている活動などについてまずお話しください。

市長：市では「ポイ捨て禁止」と一緒に「花いっぱい運動」も推進しています。これは「ポイ捨て禁止」という守りの姿勢から、一歩進めて積極的に町を美しく見せていこうというものです。

水沢商工会では、既に9年もこの運動を続けているとのこと。市内では先進地区の皆さんに敬意を表します。私の町内でも青年部を中心にポットの植えが始まり、現在では各戸2個のポットにそれぞれ花を植えて、環境美化運動に取り組んでいます。

全国的には、既にそういった組織ができあがっている地域がたくさんあります。市でも全国組織に加入して、「花いっぱい運動」を大々的にやりたいと考えています。

この運動も「もてなしの心」づくりに関連するものです。美しい花を見ていやな思いをする人はいません。交流人口がどんどん増えることを想定して、住む人も入ってくる人も心なごむまちづくりをしたいと思っています。

太田：市長さんからおほめの言葉をいただけて恐縮しています。水沢商工会では、平成元年に国道の拡幅が行われたのを契機に、せっかくだからプランターを設置しようじゃないかということになりました。同時に当間高原リゾートの話が出てきて、開業に向けてお客様を花いっぱいの環境で迎えてあげようという話になりました。

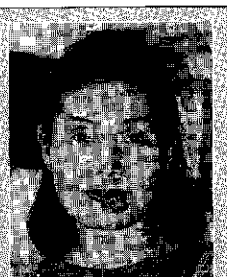
プランターの花を増やせるのは1年

やつてもせいぜい50個から1000個程度。そこで、徐々に進めようという話になりました。ところが拡幅がどんどん進み、大黒沢までプランターを設置したら、せっかくだからもっと増やせないかという話になりました。青年部の部員は28人なのでなかなか厳しく、地区振興会と協力して、現在では水沢から大黒沢までの国道沿いに400個のプランターを設置しています。

作業的に大変なので中学生からも参加してもらおうなど、いろいろな人を取り込んでいっています。

高橋：JA十日町女性部の部員は、現在1、266人います。女性部では、昭和60年から花づくり講習会をやってきました。目的は忙しい生活環境の中でも地域を花いっぱいにする事で花を觀賞する心のゆとりをもとうということ、花づくりを通してグループ間のコミュニケーションを深めようというものでした。種はJAから無償で配布していただき、小さいながらも80か所くらいで花づくりに取り組みました。そして、出来栄もいいからコンクールをしようという話も出て、実際に写真コンクールを行ったり、ツアーを組んで見学したりもしました。

平成5年には「女しよばっかじゃだめだから、年寄りしよも混ぜて市全体の美化運動にしたら」という話で増え、今年には13か所の老人クラブから取り組んでもらっています。皆さん方もご覧になったことがある



渡 辺 和子さん
(高田町1・46歳)

楽しい花との会話

高田町1丁目の環境美化を象徴する木はタマツグで、アーク1丁の完成を記念して植えられたものです。また、町内会では2個のプランターが各戸に割り当てられています。そして4月の末から5月の初めころ、町内会から花の苗が届き、それぞれ好きな花を育てます。私が毎年育てるのはベチモニア。そのほか、通りにはパンジー、マリーゴールド、ペゴニアなど数種類の花が美しく咲きます。欲を言えば、統一された花ならもっと良いのかもしれないですね。

私はお花と話をするんです。声に出して話すとおかしいなんて思われるので、心の中で「きれいに咲いたね」とほめてやるんです。そうするとますますきれいに咲いてくれます。

それに、上村重太郎さん（かみつねのおじいちゃん）が、毎朝通りのごみ拾いをしてくれています。自分の健康づくりにおっしゃっていますが、本当に偉いと思います。



かと思いますが、吉田南部地区(鏡坂・高島地区)の農道沿いに植えられた花々は見事なものです。

管理は大変でも みんなで汗を、が大切

岡村…大黒沢から水沢までというところ、かなりの距離がありますが、管理はどのようにしているのですか。特に人家のない所などは大変でしょう。

太田…管理は置かせていただいている前の家の人に水やり程度をお願いしています。また、人家のない所は私たちが肥料をやっています。水は自然に任せている状況です。

また、花は春にチューリップ、夏から秋にはサルビアといったところです。岡村…花がいつばい咲いているのを見ると心がなごみます。でも、私たちの地域は道路が狭くて、プランターを並べるスペースもありません。近くにJ A女性部の花壇があり確かにきれいなのですが、できれば大勢の方から見てもらえるように広い範囲にあつたほうがいいように思います。

町の中にも街路樹が目立ってきました。市長さんから、ぜひ各地区の道路整備をしていただき、緑を生かせる環境づくりをお願いしたいと思います。

また、花や木を植えることは子供たちの情操教育にもつながります。市長…十日町の市街地は緑が少ない。これは雪という最大の問題があつてのことです。花というのは非常に価値があります。私の町内も道路が狭いので、



岡村常吉さん
(春日町3・75歳)

屋敷の中や空き地などを利用してあります。家庭の玄関先でも、皆さんがプランターなどを置こうという気持ちになることが花いつばいの推進や、子供の情操教育につながるものだと思います。こうしたすぐにやれる部分から進めていきたいと考えています。

司会…今後、水沢商工会青年部はどのような取り組みをしていく予定ですか。太田…国道沿いはプランターの設置がほぼ完了しています。もつと増やすかどうかは検討中です。

村山…青年部の苦勞が分かります。私の家の前にもプランターが3個あり、毎朝水をやって草取りをしています。特に人家のない所の管理が問題なのではないでしょうか。増やせばきれいになるのは分かるのですが。

高橋…あれだけ多くのプランターがあり、花を維持するためには大変な予算が必要なのではいけません。

村山…単純に言えば、一つのプランターにサルビアのポット5株を入れると、プランターが400個ですので、2千株ということになります。相当の予算

がかかっています。また、青年部の人件費や自分のエリアの管理費までをいれれば、大変なものでしょう。

高橋…このような場合、市から補助金を出すとか、一括管理するとかはできないものでしょうか。

市長…例えばプランターを買うときに半額の助成制度は作れますが、管理までというのは難しいですね。お互いに汗を流すという考えでいきたいと思えます。

司会…皆さん一生懸命環境美化に取り組んでいらっしゃる方々なので話は尽きませんが、終了時間ですので座談会を終了します。

前段、市長からも話がありましたように、今後交流人口が大幅に増えるという予想されます。市ではそんな方々から、きれいな町だ、また訪れてみたいと思つていただけるような町にしたいと考えています。そのためにはごみが散乱しているような町、殺風景な町であつては困ります。ぜひ、個人でできることは継続してください。市としても美化運動に全力で取り組んでいきます。

子供のころから 美化教育



阿部恵子さん
(川治内後・42歳)

川治昭和町線沿い、内後地区の花壇づくりを始めたのは7、8年くらい前からでしょうか。当時は草ぼうぼうで、空き缶やごみなどがたくさん捨てられていました。市からの依頼があつて始めたのがきっかけです。

町内子供会とその父兄が中心になり、春にはチューリップ、夏から秋にかけてはサルビアとヒマワリを咲かせています。草ぼうぼうの時に比べて、空き缶などのごみが減っているのは間違いないですね。でも、信じられないんですが、いまだに花壇目掛けて空き缶などを投げ捨てる人がいるんですよ。

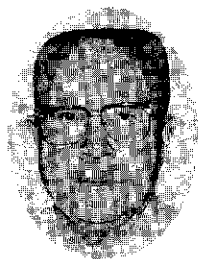
今の子供たちは団地で何かをやるといふことが少なくなつていきます。この作業が子供たちのコミュニケーションにもなつていふと思います。また、子供のころから花を育て、愛することを見れば、大人になつて道路や公共の場にごみを捨てるなんてことはないと思います。

喜びの叙勲・表彰

11月3日(月)文化の日に秋の叙勲が発表されました。また、国・県などでもそれぞれの分野で活躍された方々の表彰が行われました。晴れの栄誉に輝かれた皆さん、おめでとうございます。

勲五等瑞宝章

(保健衛生功労)

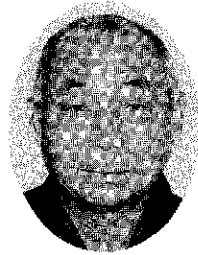


関口文二郎さん
(学校町2・73歳)

関口さんは十日町・中魚沼郡歯科医師会において、約33年間にわたり会長等の要職を歴任し、組織の統率と後輩の育成指導に尽力してこられました。12年間の会長就任期間中は事業の企画立案にも組織的に参画し、新潟県が提唱した「むし歯半減10か年運動」を積極的に推進されました。昭和50年には、県下にさががけ保育所や幼稚園・小学校でのフッ素洗口を実施するなど、歯科医療体制の充実に貢献されました。学校のほか保育所歯科医師としても地域全般の検診に47年間携っておられ歯科保健水準の向上に尽力されています。長年の業績が認められ叙勲の榮譽に輝きました。

勲六等瑞宝章

(水位観測業務功労)



池田 實さん
(桑原・63歳)

池田さんは、昭和29年に信濃川水系信濃川下条水位観測所の観測員に委嘱され、以来44年余りにわたり、水理観測員としての業務に精励してこられました。毎日朝夕の水位観測に加え、洪水時には1時間毎に臨時観測を行うなど、母なる信濃川の治水や洪水対策に重要な役割を果たしておられます。強い責任感と忍耐力は地区住民からも厚く信頼され、水理観測の精度は他の観測員の模範となっています。長年の功労が認められ叙勲の榮譽に輝きました。

栄養改善事業功労で

厚生大臣表彰



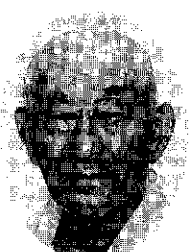
徳永マスイさん
(北新田3・70歳)

徳永さんは食生活改善推進員として、27年間にわたり栄養改善事業に貢献してこられました。昭和60年以降現在も、食生活改善推進員協議会の会長として、会の運営や後輩の指導に活躍されています。

十日町市健康づくり推進協議会委員をはじめ保護司など各種役職を務める中、温厚な人柄で地域で積極的に講習会・研修会を開催し、食生活改善の普及に貢献してこられました。

統計情報調査業務協力で

農林水産大臣表彰



須藤彦四郎さん
(川治下町3・82歳)

須藤さんは昭和47年以来、25年余りにわたり農林水産統計業務の協力者として尽力されてきました。

この間農業経営統計調査農家として、経営全般にわたり毎月の簿記帳報告に協力をいただいたほか、地域の農業事情について適切な情報を提供していただくなど、統計調査に対して深い理解と献身的な協力をしてくれました。このほか45年以来

の国勢調査をはじめ各種調査に協力するなど、長年情報統計業務全般に功績を残されています。

統計情報調査業務協力で

農林水産大臣表彰



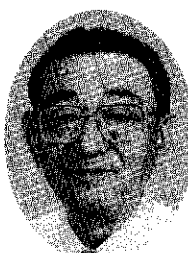
大熊 修さん
(塚田・41歳)

大熊さんは株式会社大熊牛乳店の代表取締役として会社経営を行うかたわら、昭和54年以来現在まで牛乳出荷量調査員として18年余りの長きにわたり農林水産省の調査に協力してこられました。

農林水産省が実施する各種統計調査には、調査員就任当初より理解を示され、情報提供や適切なアドバイスを行うなど積極的にかかわってこられました。調査結果は農業施策、価格安定対策をはじめ、国民経済の基礎資料として生かされています。

公衆衛生事業功労で

日本公衆衛生協会会長表彰



山口誠士さん
(下条中央通り・72歳)

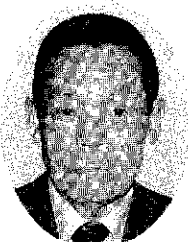
山口さんは当時無医地区であった地区民の強い要請に応え、昭和29年

に山口医院を開業されました。以来43年にわたり疾病予防活動等に尽力され、住民の健康水準向上と意識高揚に多大な実績を上げておられます。

開業医のかたわら学校医として児童の健康管理や安全管理に努め、養護教諭等の相談役としても活躍してこられました。またガン制圧を最大の目標に掲げ、昭和42年の魚沼地域胃集団検診協議会設立以来、29年間にわたり胃検診の読影技術の向上に先導的役割を果たし、胃ガンの発見率向上に多大な貢献をされています。

環境衛生美化活動に貢献

全国地区衛生組織
連合会会長表彰

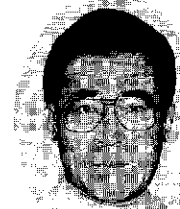


小林善吉さん
(泉町・73歳)

小林さんは、新潟県住みよい郷土建設協会十日町分会副分会長(昭和63年)をはじめ、住み好中魚沼支部評議員(60年)等の要職を歴任し、長年にわたり広域的な環境衛生思想の普及推進に努めてこられました。

また積極的に環境美化活動や環境衛生組織の指導、育成にあたるなど、地域の環境改善に多大な貢献をされてきました。現在も、地域のリーダーとして積極的に活躍を続けておられます。

歯科保健事業功労で 新潟県知事表彰

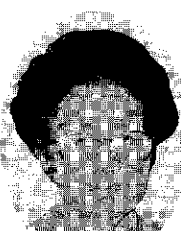


服部達也さん
(本町1下・64歳)

服部さんは34年以上にわたり地域歯科保健事業に寄与してこられました。昭和44年から26年間は、学校歯科医として市内3つの小中学校で学童・生徒の歯科検診に携っておられます。このほか3歳児歯科検診事業を24年間、1歳6か月児歯科検診事業を17年間にわたって取り組むなど、長年にわたり乳幼児のむし歯り患者の減少と予防に努めてこられました。

診療のかたわら地域の歯科医師会会長などの要職を22年間、新潟県歯科医師会の理事を3年間歴任され、歯科保健事業の普及向上と後輩の育成指導に努めてこられました。

母子保健事業功労で 新潟県知事表彰



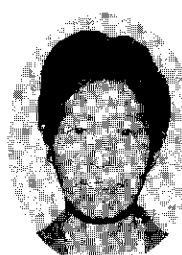
岡村キノエさん
(北新田2・73歳)

岡村さんは昭和24年以来、開業助産婦として活動を続けてこられました。

戦後の苦しい食料事情や古い風習が残っていた当時から半世紀にわたり、妊産婦や乳幼児の健康状態を的確にとらえ、栄養改善や生活習慣の改善など衛生知識の向上に尽くしてこられました。

27年以降は受胎調節実地指導員となり、家族計画や訪問指導等に積極的にかかわり、家族計画モデル地区の組織づくりの基礎を固めるなど、会員の指導と住民の衛生教育に貢献してこられました。

母子保健推進活動功労で 新潟県母子保健 推進協議会長表彰



春川アイさん
(小貫・57歳)

春川さんは昭和54年以来、母子保健推進員として小貫地区の保健推進に携わってこられました。この間、幼児の虫歯予防に関する調査結果をふまえ、自宅を開放しての母親・祖母を対象にした調理実習を行うなど、地域全体の健康度を高めるために先導的な役割を果たしてこられました。こうした長年の努力の結果、地域の健康診断受診率は市内で一番高くなっています。現在も保健推進員として住民の信頼を得、健康に対する良き相談者として地域の健康増進に活躍しておられます。

里創プラン
妻有郷アートネックレス
整備構想
—シリーズ2—
■問い合わせ 十日町地域広域事務組合
事務局企画振興課 (☎57-2285)

10月10号に引き続き、今回は「里創プラン」の中心となる「妻有郷アートネックレス整備構想」の目的と特色を紹介します。

◎構想の目的

- ①地域の誇りと愛着の醸成
自然・文化・伝統を踏まえ、妻有郷の魅力を再発見し、地域への自信と愛着を醸成します。これにより住み続ける夢と展望を作り上げます。
- ②地域の魅力増進
新たな仕掛けや創造的なイベントにより地域の魅力を一層拡大し、美しい里づくりを目指します。
- ③産業の振興
①②を進める過程で、育まれた魅力や人材を生かし、地場産業の拡大と新たな展開を図ります。
- ④交流人口、定住人口の増加
妻有郷の魅力増進に伴い、多くの

人々が訪れるようになります。同時に生活の豊かさを実感し、住み続ける人々が増えるようになります。

◎構想の特色

- ①ソフト重視
公共投資による施設(ハード)整備ではなく、ソフトの整備を第一に考えます。地域活力を持続させるためにはソフト面の充実が不可欠です。
- ②広域プロジェクト
本構想は県と6市町村の連携による広域的事業です。各市町村が、独自性を維持しながら連結し、全体で新たな魅力を発信していきます。
- ③全員参加
構想は10年間継続される長期事業です。事業の遂行過程においても地域振興を図ることを重視し、期間中の市民参加そのものが、人材育成と地域の活力を生む契機になります。
- ④専門家の参画
国の内外から建築、芸術等の専門家や環境、生態学など学術分野の専門家が参加し調査等に加わります。
- ⑤妻有郷8万人のステキ発見
平成10年度から妻有郷8万人全員と圏域外の人々で「妻有郷のステキ」を発見する企画が行われます。
- ⑥大地の芸術祭
3年に一度「大地の芸術祭」(アトリエンナーレ)を行います。
自然の魅力を生かすイベントは妻有郷の魅力内外に広め、長期にわたり住民の盛り上がりを持続する重

要な役割を果たします。

- ⑦自然体験型ふれあい文化施設
6市町村にステージと呼ばれる自然体験型の文化施設を建設します。ステージをそれぞれの文化活動の拠点にすえ、活動を世界に誇る水準にまで高めてゆきます。
- ⑧アートの活用
不朽のアートには、(1)情報発信性(2)現場に人を引き付ける「空間性」(3)ものの新たな部分を引き出す「発見性」等の地域振興に役立つ特質を持っています。各事業にアートを活用していきます。
- ⑨既存の地域資源の利用
既存の伝統文化、施設などを生かし構想の新たな要素と連結させます。
- ⑩世界に向けて
妻有郷の課題は全国の中山間地域の共通課題です。自然環境の保全と地域文化の継承・発展という側面は全世界にも通じるテーマです。



第30回市美術展入賞者



美術愛好家の皆さんのレベルアップを目的に、昭和43年11月に初めて開かれた「市美術展」。今年は第30回目を迎え10月19日(日)～21日(火)、市民体育館で開かれ3千3百人を超える入場者がありました。8部門の出品点数は昨年を大幅に上回る341点、審査の結果、次の89人の皆さんが入賞(敬称略)しました。

日本画

出品30点

- 市展賞 高橋永美子(津南町)
 特別賞 渡部成子(小千谷市)
 奨励賞 山賀光也(小千谷市)
 青柳卓次郎(小千谷市)
 藤本迪則(新座3)
 佳作 春川雅英(四日町中原)
 羽鳥絹代(妻有町西3)
 村山 忍(新座2)

洋画

出品50点

- 市展賞 清水好和(津南町)
 特別賞 野本幸子(桑原)
 奨励賞 小海秀夫(原)
 浜出綾子(川治上町1)
 東 祐義(本町6-2)
 佳作 関口耕二(袋町中)
 福原美恵(津南町)
 小林幸一(津南町)
 草村慶子(松之山町)
 村山邦好(田川町3)
 藤田美智子(南新田町1)
 井ノ川五郎(高田町5)

版画

出品22点

- 市展賞 中林辰男(西寺町)
 特別賞 羽鳥スミ(岩野)
 奨励賞 大口貞信(四日町1)
 桑原昭夫(桜木町)
 佳作 尾身伝吉(山本町3)
 宮沢美世子(小黒沢)
 富井澄子(中里村)

現代美術

出品19点

- 市展賞 長谷川義明(田川町3)

- 特別賞 吉岡千絵(山本町3)
 奨励賞 柳 利枝(中里村)
 佳作 宮島英夫(伊達4)

彫刻

出品3点

- 特別賞 根津正和(西浦町西)
 奨励賞 小杉元義(四日町2)
 市展賞 星名好男(妻有町東2)
 特別賞 大熊敏郎(四日町新田3)
 奨励賞 近藤哲也(上新田3)
 佳作 瀧澤芳彦(津南町)
 山内蓮子(本町3)
 田村千春(学校町1)
 市村久子(本町6-3)
 新潟日報美術振興賞 金井正一(水沢1)

書道

出品68点

- 市展賞 柳 京子(本町2)
 特別賞 山田令三(六日町)
 奨励賞 和田良一(大和町)
 佐藤千恵美(馬場2)
 中村暢子(高山3)
 丸山吉松(津南町)
 田中武彦(寿町3)
 佳作 長谷川美智子(高田町2)
 宮沢礼子(伊達2)
 田口節子(本町2)
 島村 弘(大和町)
 大津幸一(新座3)
 桑原千鶴(津南町)
 長津聡子(川治下町3)
 山岸繁雄(松之山町)
 田邊 武(川西町)

写真

出品116点

- 市展賞 中林正一(上町)
 特別賞 津野文夫(高田町3東)
 奨励賞 石川哲司(妻有町西3)
 樋口喜一(谷内丑2)
 青木和雄(塩沢町)
 仲 淳(小千谷市)
 田村正夫(小千谷市)
 山田令三(六日町)
 樋口芳一(中里村)
 宮澤健二(小黒沢)
 直井公宏(栄町)
 阪東健次郎(高田町5)
 中町一久(仙之山)
 高橋 徹(塩沢町)
 羽鳥宏史(川西町)
 南雲幸男(川西町)
 高橋 等(稻荷町2)
 桜井基(姿1)
 桑原勝一(湯沢町)
 岡村義一(北新田3)
 高橋健吉郎(川原町)
 山岸守二(川西町)
 生越謹治(原)
 桑原昭夫(桜木町)
 山崎 仁(袋町東)
 生越武好(上新田3)
 茂野誠一郎(川西町)
 小坂幸平(稻荷町西)
 斎藤代江子(塩沢町)
 平賀重貴(塩沢町)

(注)各部門の特別賞は、「第30回記念特別賞」です。



十日町市文化協会連合会では、11月3日に開かれた第30回文化祭の席上、平成9年度褒賞受賞者として、地域の芸術・文化等の向上に功績のあった個人9人と1団体を表彰しました。受賞者は次の皆さん(敬称略)です。

表彰状

地域の文化の向上に尽力、または文化活動に多額の金品を寄付し、その功績が著しい個人・団体に贈られます。

■山崎 巖(高田町6)

長年にわたり広範囲な芸術制作活動を続け、地域の芸術文化の発展と向上に尽くされました。

■小川公吉(本町4)

長年、地域俳壇で活躍し、全国大会最高賞受賞など、俳句文芸の発展と向上に尽くされました。

■樋口熊蔵(中条旭町)

長年、市指定無形文化財の「火の坂」保存会会長として、その保存

税に関する作文標語

最優秀賞 優秀賞

十日町納税貯蓄組合連合会（小林辰雄会長、十日町市租税教育推進協議会（会長 本田市長）、十日町税務署では、中学生を対象に「税に関する作文・標語」を募集しました。これは、将来の税の担い手になる中学生から、税の必要性や仕組みを知ってもらおうと毎年行っているものです。応募点数は作文の部が411点、標語の部が944点ありました。最

優秀賞、優秀賞の皆さん（敬称略）を紹介します。

最優秀賞 山口あゆみ（南中3年）
優秀賞 佐藤ゆきえ（南中3年）

最優秀賞 中村有紀（中条中2年）
優秀賞 中澤宏明（十日町中1年）

と伝承に尽くされました。
近藤シズエ（上新田1）
長年にわたり美術作品の制作に励み、地域の芸術文化の発展と向上に尽くされました。

作文の部

■十日町納税貯蓄組合長賞
最優秀賞 秋山絵里子（南中3年）
※原文を掲載

関谷貴子（南中3年）
津畑恵美子（中条中3年）
村山千尋（中条中3年）
根津育未（中条中3年）

「ほらそこに
あなたの税が 生きています」
優秀賞 中澤宏明（十日町中1年）
角山里美（十日町中2年）
津畑恵美子（中条中3年）
村山秀和（水沢中3年）
柳 美香（吉田中2年）

標語の部

■十日町税務署長賞
優秀賞 尾身千恵子（中条中3年）
■十日町市租税教育推進協議会長賞
優秀賞 村山祐介（下条中2年）

■十日町税務署長賞
優秀賞 村山祐介（下条中2年）

長年にわたり広範囲な芸術制作活動を続け、地域の芸術文化の発展と向上に尽くされました。

■五十川庚平（川西町）
長年にわたり広範囲な芸術制作活動を続け、地域の芸術文化の発展と向上に尽くされました。



十日町市立南中学校3年 秋山絵里子

税を知って

私は今まで税金については、自分に直接関係のある消費税以外ほとんど知識がありませんでした。一般的に税金は、高いと思われ、悪いイメージに見られていると思います。だから今年の四月から消費税が、3%から5%に引き上げられた時も、正直言って反対でした。

税金がどのような使われ方をして、なぜ引き上げが必要なのか全然理解していませんでした。税金について少し勉強して、わすかですが理解できるようにした今は、考え方も変わって来ました。

税金は私達の身の周りでいろいろ役立っている事が分かりました。

消費税の引き上げられた分は、福祉の方に役立てられていると聞きました。

私の身の周りでも税金によって助けられている事が多くあります。私の祖父は障害者だったので、障害年金を受給していました。

祖父が入院した時は、ホームヘルパーさんを頼んだ事もありました。

祖父が病気になるってからは、入院院を繰り返していましたが、それらの費用も税金から支払われていました。

私の住んでいる十日町市は、新潟県内でも有数の豪雪地帯です。一晩で一メートル以上も雪が降り積もる事もあり、毎年道路の除雪には、多額の費用がかかります。

私達がまだ眠っている夜中の暗いうちから除雪隊の方達は市民の通勤や通学に間に合うように、道路の除雪をしてくれま

す。そのおかげで私達は歩いて学校に行けるし、車に乗って買い物にも行けます。私達は感謝をしながらはいけないのに、私は自分の事しか考えなくて、「夜中に除雪車がうるさくて眠れなかった」と

文句ばかり言っていて反省をしています。

今年の三月に、市民が長年待ち望んでいたほくほく線が開通しました。

今まで東京方面に行くには、車かバスで、国道二五三号線を通って、湯沢まで行きましたが、カーブや坂が多くて、冬の雪道は大変でした。でも、ほくほく線の開通によって、時間が短縮されたのはもちろんですが、安全面でもとても楽になりました。

私の家でも姉が帰って来る度に、湯沢まで送り迎えしていたので、両親が喜んでいました。このように、税金は私達の生活に無くしてはならない大切なものです。

賞状

全国規模以上の審査会・展覧会等において卓抜した成績を取った個人・団体に贈られます。

■小海清司（四日町2）
第15回肢体不自由児・者美術展において厚生大臣賞を受賞し、地域の芸術文化の発展に寄与されました。

■島田鉄夫（川治下町2）
全国奎星展において最高賞の奎星賞を受賞し、地域の書道芸術の発展に寄与されました。



雪のくにの明日を拓く 十日町雪シンポジウム

十日町市と日本雪工学会の主催による「十日町雪シンポジウム」が10月28日(火)、クロス10で開かれました。このシンポジウムは昭和60年から県内地域を持ち回りで開催されているもので、今年で第13回を数えます。当日は関係者500人が参加。午前は開会式後、2テーマに分かれてのパネルディスカッション、午後からは中里村出身の南雲道雄氏の特別講演に引き続き、2テーマについての話し合いが行われました。



座長：宮内信之助（長岡技術科学大学教授）
 総括：山田一介（新潟青陵女子短期大学教授）
 パネリスト：石原正敏（十日町市博物館学芸員）
 小林 均（㈱小嶋屋代表取締役）
 青柳安彦（㈱青柳取締役社長）
 吉岡千絵（テクノスクール講師）
 滝澤正隆（タクトシステムズ㈱社長）
 本間 侃（ホンマ科学㈱社長）

十日町の活力の再発見

何のために活力を出すか。それは地域を良くするためにです。若い人が元気のいい地域は活力があります。したがって、若い人が行動する時に足を引っ張ったり、頭を押さえたりしては駄目です。地域づくりには「若者と余所者と馬鹿者」が必要だといわれていますが、余所者はよそから来た人で、広く物事を見られる人のことです。馬鹿者とは行動力のある人、お祭り人間のことです。また、行政と住民との関係では、行政がやるべきことと、住民がやるべきことを整理しなければなりません。今言われている自立と共生です。人と人、人と地域の関係も同様です。

雪まつりにしても、地域づくりにしても、住んでいる市民が十分に楽しむことができるか、訪れて来てくれる人の評価に耐えうるか、何よりも十日町のイメージアップにつながるか。この点のチェックが活力のポイントになってきます。



座長：湯沢 昭（長岡工業高等専門学校教授）
 総括：加藤勝彦（新潟県土木部副参事）
 パネリスト：大熊孝夫（北越急行㈱専務取締役）
 村松敏光（建設省長岡国道工事事務所長）
 佐藤信二（十日町青年会議所理事長）
 朝長賢郎（㈱当間高原リゾート代表取締役副社長）
 水野美奈子（利雪しんせつ研究所）

ほくほく線と 高規格道路の整備と活用

当地域は県内でも有数の豪雪地帯であり、降雪による交通障害や雪害が生活や産業活動に大きな影響を与えてきました。しかし、多くの観光資源、農山村文化、自然景観等が手つかずの状態に残っており、都市生活者にとつての非日常的な魅力として、地域の有効な資源となっています。このような環境下において、今年3月には待望の「ほくほく線」が開通し、さらに高規格道路の計画が浮上してきています。

豪雪地帯、過疎化、高齢化の地域ゆえに道路や鉄道の社会資本整備は不可欠ですが、これはあくまでも手段であり目的ではありません。地域の有効な資源を生かし、地域の活性化に結びつけるために、社会資本を活用する仕組みづくりや手だてを、さらに地域の将来のあるべき姿を、住民と行政が一体となって考え、現在何をすべきかを見いだしていく必要があります。

特別講演



雪は母である

南雲道雄氏

1931年（昭和6年）中魚沼郡中里村生まれ。1957年 新潟明訓中学校、十日町高校を経て、法政大学文学部日本文学科卒業。又芸通信社、出版社などに勤務し、1970年ころより文筆生活に入り、現在に至る。この間、1970年より1980年にかけて、日本農民文学会議長（代表）編集長を務め、現在は農民文学賞選考委員。現在、東京農業大学非常勤講師、農林水産省農業者大学校講師。

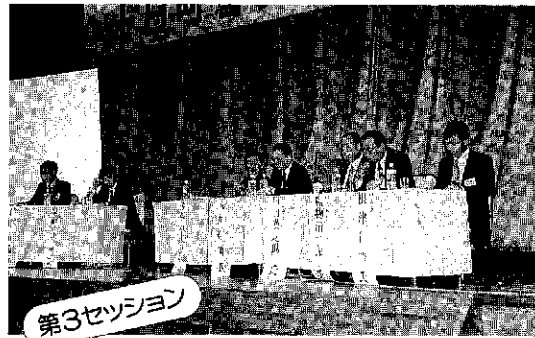
雪国の生活から離れて40数年が過ぎました。初めて雪を意識したのは昭和20年の豪雪です。高等科2年の時でしたが、懐かしい思いがあります。

終戦後2年目、中学（新潟明訓）入学のために初めて郷里を出ました。翌年暮れに父が死亡。12月30日の最終列車で新潟をたち、翌朝8時に越後川口に着きました。既に列車の出発後で、線路伝いに雪の中を歩いて、夜8時ごろ家路に着きましたが、さすがに寒い気分でした。また、40歳半ばに3か月入院しました。退院して間もなく雪が降り、雪の中をワクワクしながら通院しましたが、雪が病状を吹き飛ばしてくれたのではないかと思っています。私にとって雪国は美しい、温かい所というイメージが強くあります。

大人ですが、雪への思い入れの強い人で「雪国人」だといっています。その意味では私も雪国人です。高田さんは雪の類語として原始、自然、神秘、無限、眠り、子供を挙げています。また「太郎を眠らせ太郎の屋根に雪ふりつむ。次郎を眠らせ次郎の屋根に雪ふりつむ」という三好達治の詩があります。母はものを生み出す根元、ふる里とも言い換えることができます。それゆえ、雪は母の意味です。

冬と夏の鮮やかな二つの世界を共有できることは、雪国独特のもので。山の幸、海の幸があるように、雪の幸や文化を考えていただきたい。忙しい現代人が立ち止まる時間、自然・無限・静けさ、雪によって心が洗われる時代をアピールすること、雪国の活性化につながるのではないかと考えています。

雪国の安全を考える



第3セッション

座長：青山清道（新潟大学積雪地域災害研究センター助教授）
総括：塩野計司（長岡工業高等専門学校助教授）
パネリスト：遠藤八十一（農林水産省森林総合研究所十日町試験場主任）
丸井英明（新潟大学積雪地域災害研究センター教授）
田口英之助（十日町市積雪運営協議会連合会運営委員長）
監物清一郎（新潟県十日町土木事務所長）
根津征吉（十日町地域消防署第二小隊長）

暮らしの周りには様々な危険があります。雪が降ればなおさらです。体力のない人や雪に慣れていない人には、道路に積もったわずかな雪さえも危険な存在になります。雪下ろしや路地の雪かきなどにも多くの危険が潜んでいます。また、雪崩や土石流のような危険には人の命をも奪うパワーがあります。

雪崩のような危険に対しては、出会わないような住み方や行動の仕方を工夫する必要があります。一方、滑る、落ちる、埋まるなどの日々の暮らしの中の事故は、危険を回避する気持ちに不足があったためといえます。雪に対する安全とは何か、雪国を安全にする方法とは何か、ということに対して大勢の人が対策にかかわり、対策を知ることが大切になってきます。とにかく常日ごろ、雪国ゆえに複雑になる危険への心構え、対策を考えておく必要があります。

都会と雪国農村の共生



第4セッション

座長：樋口利明（利雪しんせつ協会会長）
総括：野中昌法（新潟大学農学部助教授）
パネリスト：久保田高（ひのスノーマン）
藤巻洋子（十日町市下条在住主婦）
山田 栄（十日町市杜木不在住）
山本昭夫（農林水産省北陸農政局計画部資源課長）
西澤輝泰（新潟大学経済学部教授）

経済効率化のために、ある意味で農村地域が犠牲になってきたといえます。ところが都会人が生きていくために農村が必要とされる時代になってきました。農村の人たちは住み続け、都会の人たちが訪れて来る共生の時代です。こうした背景の中では、「雪国の農村の価値」をしっかりと認識する目を地域で育て、いかに情報を広めていくかという運動を作っていくことが大切になってきます。

ひのスノーマンと下条地区の交流、枯木又エコミニージアムの交流は、温かい触れ合いの繰り返しの中で培われてきたものです。訪れる人を向かえるためのインフラ整備も必要ですが、農村には観光地とは違った力があります。例えば自然景観、伝統文化、生きる農業などです。こうした地についた力に裏打ちされていけば、交流は薄っぺらなものではなく、深まっていきます。

みんないきいき。

サークル交流録

PART 80

飛んで飛んで、戻ってくるよ。
新規会員募集中です。

●十日町ブーメランクラブ●

このコーナーでは、登場していただくサークルを募集しています。
問い合わせは企画人事課広報係 ☎57-3111 内線213へ。

「自分で作ったブーメランが、空中で大きな円を描きながら自分のところに戻ってくるなんて最高の気分ですね」。この魅力にひかれた仲間が集まり、去年の春にクラブが誕生しました。市内、市外を含めて13人の仲間です。

ブーメランは昔、オーストラリアの原住民が狩猟のために使った武器であったことから危険な物と思われていましたが、近年、欧米各国を中心にスポーツとして競技会が盛んに行われ、1年おきに世界大会も開かれるまでになりました。

日本ブーメラン協会という組織があり、全国各地の子供からお年寄りまでが楽しんでいます。県内には私たちのク

ラブと新潟クラブしかありませんので、大勢の人たちに楽しさを知ってもらおうと市内で講習会を開いたり、市外の講習会にも協力しています。材質はベニヤやプラスチック、ちょっと楽しむくらいなら厚紙でも十分です。

2000年のシドニーオリンピックにあわせて、同地でブーメランの世界大会も開かれますが、夢はクラブから日本代表選手を出すことです。競技人口がまだ少ないですから可能性はありますよ。

仲間全員での定期練習はありませんが、都合のつく者が日曜日の午後、城ヶ丘ピュアランドに集まり投げ合っています。ボールを50m投げるといって大変ですよ。でもブーメランならば、ちょっと練習すれば子供や女性でも50m先に飛ばし戻ってきます。そう考えると楽しいでしょう。興味のある方は小林文彦（加賀糸屋町 ☎57-2234）へご連絡ください。女性の競技人口は少ないですから、夢実現のチャンス多いにありますよ。



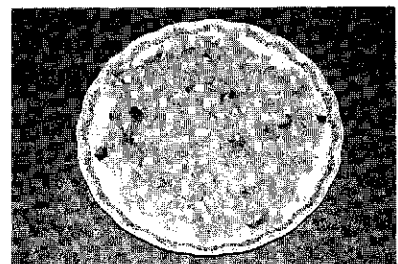
雪解けとともにピュアランドに集合



日本大会で世界チャンピオン（写真右）と交流（平成8年8月、神奈川県平塚市）

MENU ④

材料（2人分）
冷ご飯…300～400g
鮭（甘塩）…2切
卵…2個
長ねぎ…1本
サラダ油…大さじ2
しょうゆ…大さじ1
塩・こしょう…適量



鮭と卵のチャーハン

小さな子供たちが料理をする姿はかわいらしいですね。

お田さんが、ちよつと手伝えに子供さんも簡単に出来る鮭入りチャーハンを作ってみました。鮭はこれからがシーズン。また、肉の苦手なお年寄り向きでもあります。

お田さんと子供さんで一緒に作って食卓を飾ってみてください。

＜作り方＞

①鮭は焼いて身をほぐす。

②長ねぎは小口切にする。中華鍋をよく熱し、油をなじませる。

よくほぐした卵を流し入れ、強火でかき混ぜながら半熟になったところでご飯を入れ、全体によくほぐす。そのため、塩、こしょうをする。

④③にほぐした鮭、長ねぎを加え、しょうゆを鍋肌から手早く回し入れて一気にいため上げる。
※鮭の塩味をみて、塩加減を調整してください。



金澤 ミツさん
（新宮 2 ☎58-3211）

このコーナーでは、登場していただく人を募集しています。問い合わせは企画人事課広報係 ☎57-3111 内線213へ。

本気の本音

夫から妻へ・妻から夫へ

No. 20

夫 浦佐の生まれ。転勤で県内を転々として、十日町で結婚。30年も前のことなので正確ではありませんが、雪の覚えがあります。考えてみたら一本道なので付いてくるしかなかったんです。あれがプロポーズなんでしょう。年に大波・小波がうら6回、男としては少しのことでブンブンされては困ります。

妻 夫は盆栽の菊、私は花壇でいろいろな花を咲かせます。私は怒ると口をきかなくなるんです。そんな時、夫は私の花をほめるんです。お互いの花をほめ合うことで、愛情を確認し合うことができます。いい趣味ですよ。今年で結婚30年、でも大げんかはないですね。平らない人ですよ。記念の年、お父さん旅行にでも行きますか。



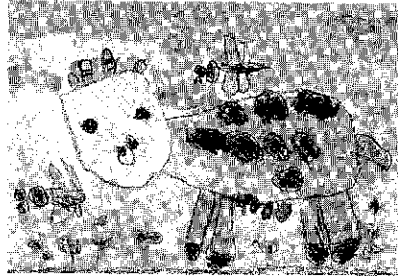
このコーナーでは、登場していただく人を募集しています。問い合わせは企画人専課広報係57-3111内線213へ。

息子が嫁をもらい、孫でもできて一緒に暮らせば最高と語る、貝瀬元一さん(北新田1・56歳)則子さん(54歳)夫婦です。

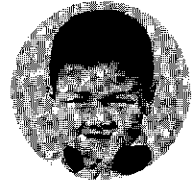
子供画廊

じょうずに描けたね!!

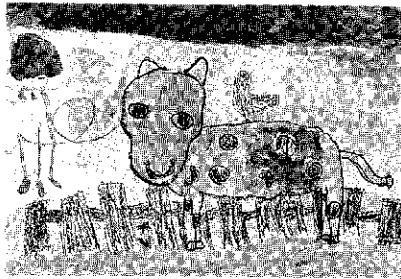
東下組保育所 ⑮



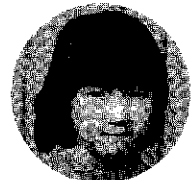
瑞希ちゃんちの牛のミルクは最高なんだ。こつてりして、とても甘いよ。いっぱい飲んで僕も大きくなるんだ。



瑞希ちゃん
水落 淳くん (5歳)



おとうさん、おしいちゃんが牛をいっぱい飼ってるの。この間、赤ちゃんが生まれたよ。1ぴきは白、1ぴきは黒。かわいいよ。



瑞希ちゃん
水落 瑞希ちゃん (6歳)

農家の一人っ子として大正11年に生まれました。下条尋常高等小学校を卒業後、家で農業助手をしていました。そんな私も兵隊に取られることになり19歳で徴兵検査を受け、翌昭和18年1月に高田の連隊に入隊しました。高田連隊では豊田四郎監督の「若き姿」という東宝映画の撮影協力で、白馬山で10日間春春スキーをした思い出があります。その年の5月には満州の「独立ガス30中隊」という秘密部隊に転属命令が下りました。「光1360」という暗号で呼ばれたこの部隊で、私は毒ガスを想定した訓練を受けました。しかし



旧満州国黒河省にて

同年8月には部隊そのものが解散となったのです。もともと毒ガス兵器は第1次世界大戦でドイツが使ったのが始まりです。効果は絶大ですが、無差別的な性質から国際法で使用が禁じられていたものです。この部隊の存在も30年以上にわたり闇に葬り去られていました。

実は私たちの部隊の目と鼻の先にもう一つの部隊が駐頓してました。壁に囲まれ人の気配もしない。私たちの部隊で飼っていた犬が隣の建物に逃げ込んだというので先輩の兵士が入ったことがありました。中は書類が散乱し、既に誰もいなかったそうです。後で話を結び付けると、これが石井部隊長の率いたあの731部隊だったのです。

戦争は絶対にするべきではない。我々個人が協力したつもりはなくても巻き込まれたという過去がある。そのことを若い人たちに言っておきたいのです。

その昔 そして今

TOKAMACHI

田村守一さん
(下条栄町) 75歳

このコーナーでは、登場していただく人を募集しています。問い合わせは企画人専課広報係57-3111内線213へ。

「ほくほく線」沿線を
首都圏・関東地区に売り込め

10月6日・7日の関西地区に引き続き、旅行記事を専門に扱う東京地区の雑誌記者を集め、23日(木)・24日(金)の両日妻有地域の観光紹介が行われました。この事業は「ほくほく線」沿線地域を関東地区の皆さんに広く紹介しようと、県観光協会・越後妻有郷観光協議会が主催して行われたものです。当日は朝晩涼しい秋の空気に、手帖などの記者10人が出席しました。

地域の観光施設の見学後行われた座談会では、参加した記者から「今回見せてもらった所は初めての所ばかり。施設は小さくても人は呼べます。ずうずうしいくらいにPRすることが大切です」などの意見が出されていました。

雑誌記者を集めPR

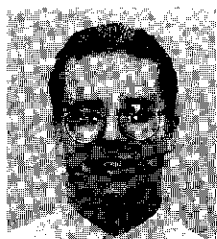
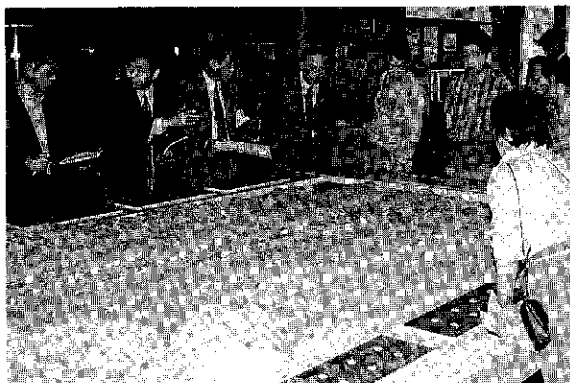


地区内を歩いて
老いも若きも交流の輪

10月19日(日)快晴、駅西広場発着の「地域めぐり郷土学習会・健康ウォーク」が博物館見学コース、下水処理場見学コースに分かれて行われました。これは西部地区振興会が創立10周年記念事業として行ったものです。全16町内から約220人、2歳から83歳までの皆さんが参加。博物館、下水処理場の見学と合わせ、美人清水や逢坂稲荷など、地域の足下を見つめながら歩みを進めました。

到着後は豚汁に舌鼓、抽選会やカラオケで大にぎわい。参加者からは「楽しいね。毎年あったらね」という多くの声が聞かれ、地域内の交流を深めるひとときになりました。

西部地区が10周年



ALTERNATIVES

Aaron Peters

エアロン・ピーターズ

市内中学校英語指導助手。
アメリカ ペンシルバニア州アレンタウン出身。

A few weeks ago, I got a project at school which I am very excited about. Over the next week or so, I will be making the Minami JHS Home Page. The principal of this school, Mr. Sagawa, has been in communication with several schools in America and New Zealand. He has asked me to make a page showing Minami and especially the new forest we made last year. This page will also feature some aspects of the school, like the clubs, students, and teachers. I have begun taking the pictures and making the pages on my computer. Look for the Minami JHS Home Page coming soon!

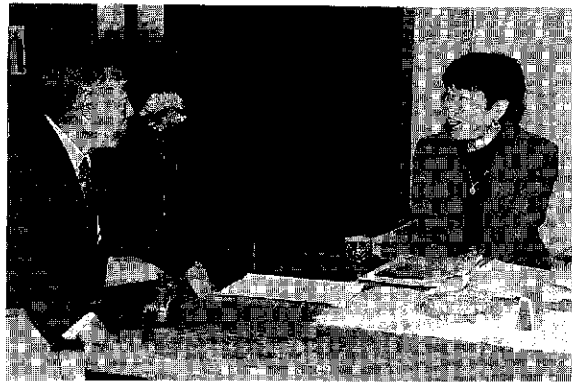
数週間前、わくわくするようなプロジェクトをいただきました。来週一週間くらいで、南中学校のホームページを作成するのです。南中学校の佐川校長先生は以前からアメリカとニュージーランドの学校と交流があり、特に去年できた森(南の森)などの南中紹介ページを作らないかと言ってくださいました。そのほかにも、クラブ活動や生徒、先生に関する学校の様々な面を載せる予定です。写真も撮って、自分のパソコンでページを作り始めました。もうすぐお目見えする南中ホームページをお楽しみに!

あらゆる分野への 男女共同参画に向けて

10月29日(水)公民館本館において平成9年度女性問題懇談会が開催されました。これは昨年4月に創設された新潟県女性政策課の主催によるもので、今年度県下の会場で行われる懇談会の最初の開催となったものです。

はじめに小林女性政策課長から「ニューにいがた女性プラン」という県の女性施策の基本指針と、「男女共同参画社会」という理念についての解説が行われました。続いて「男女が社会の対等な構成員として、あらゆる分野へ参画する機会を確保する」という基本指針について市の幹部職員7人と参加者男女12人とが、実体験を交えながら意見を交換しました。

女性問題地域懇談会

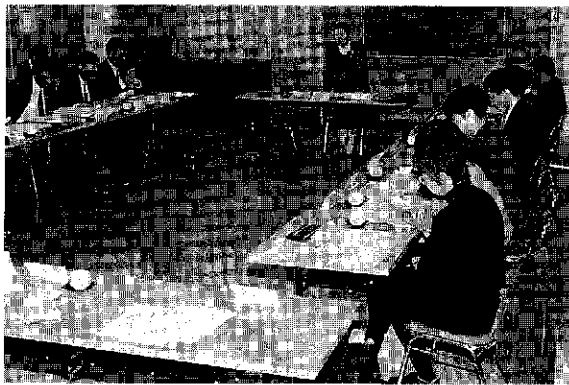


岡元真弓さんが 地域初の派遣団員に

新潟県女性海外派遣団の一員に、岡元真弓さん(学校町1)が選ばれました。この事業は女性を海外に派遣し、国際的な視野を持った地域づくりのリーダーを養成しようと、平成5年から新潟県が行っているものです。競争率4倍という難関を突破した10人は、11月5日から10日間の日程で女性の社会進出が進んでいるデンマーク、スウェーデンなどを訪問し、社会福祉施設を視察したり、現地の方々と交流します。

出発に先立ち10月31日(金)、本田市長を表敬訪問した岡元さんは「社会福祉の先進国で、女性問題や人権にも配慮された国の実情を、しっかりと勉強していきたい」と抱負を語りました。

県女性海外派遣団



日本一の健康増進をのぞいて

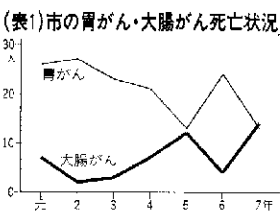
すこやかEG-HO

●問い合わせ
健康増進係
☎57-3111

急増している 大腸がんをストップ

▼市の大腸がんは増えている

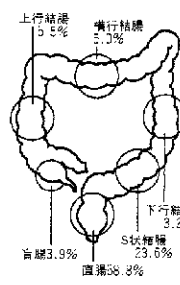
全国で死亡原因の第1位になっています。市でも死亡原因の第1位になっています。表1で示すように、平成7年度では胃がんを抜いて14人が大腸がんで亡くなっています。また、8年度では市の実施する大腸がん検診で、1、862人中6人のがん発見がありました。食事の欧米化により大腸がんは増えているのです。



大腸という長い蔵器の中で、図1に示すように、S状結腸と直腸にがんは多く発生しています。この部位は、便のたまりやすい場所です。大腸がんの原

因の一つとして、脂肪の取り過ぎにより、その消化吸収のため多量に出た胆汁酸が大腸の粘膜に作用し、がんを出来やすくすると考えられています。S状結腸や直腸では腸内細菌の影響で、がんの発生をより強くするような変化した胆汁酸が、長時間粘膜に刺激を与えます。

▼予防と早期発見



大腸がん予防のためには、①脂肪の多い食事をさける②食物繊維を多くとる③便意を我慢しない④運動して腸の働きをよくする、といったことが重要です。

自覚症状は、最初はほとんどありませんが、少し進むと①下痢・便秘や排便後の残った感じ②粘液や血の混じった便③お腹のはりや下腹の痛み④お腹のしこり⑤原因不明の貧血等があります。血便など痔とまぎらわしい症状もあるので、年一回の市の大腸がん検査をお勧めします。

2日分の便に、棒をさして血液が混じっているか調べる簡単な検査です。精密検査が必要といわれたら、必ず医療機関で受診しましょう。早く治療すれば、がんは恐くないのです。

出 かけませんか

11月「子供映画会」

■日時 11月22日(土)午前10時〜
■場所 少年育成センター 観入場料 無
■観覧内容 風船旅行で大冒険、いた
ちのこもりうたほか 観問合せ 少年
育成センター ☎57-8918へ。

おやこ劇場(選択)例会

■日時・場所 11月22日(土)午後6時
15分〜(柏崎文化会館・そうべい)く
らくへゆく、11月29日(土)午後7時
〜(サンククロス十日町・小さい劇場)
■観問合せ 水落静子(東下組 ☎56
2144)へ。

市吹の定期演奏会

■日時 11月30日(日)午後2時〜
■場所 市民会館ホール 観入場料 7百
円(小学生以下無料) ■プレイガイ
ド 公民館本館、イトー楽器、オギ
ノ楽器 観問合せ 富沢勉(下条4丁
目 ☎55-2056) ☎57-584
4へ。

'97デザイン・マイ・プロジェクトフェア

■日時 11月21日(金)〜24日(月)午前10
時〜午後5時(ただし、最終日は午
後4時まで) ■観場所 1クロス10 観
入場料 無料 観覧内容 各種展示、フォ
ラム(川本敦久氏・染織工芸家ら

選挙標語優秀者発表

十日町市明るい選挙推進協議会・市
選挙管理委員会では、市内小・中学校
の児童・生徒を対象に明るい選挙啓発
標語を募集しました。応募者236人の中
から優秀作品をご紹介します。

- 〈入選〉
○選挙から 明るい町を 生み出そう
庭野留衣さん(十日町小6年)
○みんなで選ぼう みんなの代表
須藤香奈思さん(下条中3年)
○投票日 でかける前に まず一票
村山真奈さん(下条中1年)

- 〈佳作〉
金子芳紀君(十日町小6年) 庭野良祐
君(十日町小6年) 小山大輔君(吉田
中3年) 尾身侑子さん(吉田中3年)
庭野佑希子さん(十日町中2年) 高橋
優介君(十日町中2年) 水落駿君(下
条中3年)

寄付ありがとう

10月25日届け出分まで(敬称略)

- 地域福祉事業へ 小野塚博(稲荷町
3東、30,000円) 藤田恭子(中里村、
30,000円)
- 社会福祉事業へ 小野塚博(稲荷町
3東、香典返し30,000円) 勝又薬局お
客様一同(2,120円) 匿名(10,000円)
- 赤い羽根共同募金へ ボーイスカウ
ト十日町1団(街頭募金36,104円)
- 羽根川荘へ 中条会(5,200円) 仲好
会(6,600円) 上原老人クラブ(900円)
- 交通安全児等援助基金へ 関口潔(加
賀系屋町、37,400円) 十日町高校定時
制生徒会会長・速田正之(35,358円)
- 博物館へ 市川利盛(京町) 上村ト
シイ(伊達3)
- 情報館建設準備室へ 田村達夫(中
条旭町) 山田周二(千歳町1) 滝沢正
俊(本町1上) 石沢文義(尾崎) 大海
一郎(東京都) 魚沼新報社(六日町)
松代町公民館(松代町)
- 平和基金へ 原水協十日町市(1,
000,000円)

を招いてのパネルディスカッション。
21日(金)午後4時から 観問合せ 1ク
ロス10 ☎57-2323へ。

精神保健福祉のこころ

■日時 12月5日(金)午前10時〜午後
3時45分 観場所 市民会館ホール 観
入場料 無料 観覧内容 パネルディス
カッション、講演会 観問合せ 健康
福祉課保健予防係へ。

●三三情報(保健)

◆酒害の相談 ■日時 11月28日(金)
午後1時30分〜3時 観場所 十日町
保健所 観問合せ 十日町保健所 ☎5
7-2400 または健康福祉課保
健予防係へ。

◆心の健康相談 ■日時 11月21日
(金)午後1時30分〜3時 観場所 十日
町保健所 担当医 須賀医師(中条
病院) 観問合せ 十日町保健所 また
は健康福祉課保健予防係へ。
◆保健所難病相談 ■日時 11月28
日(金)午後1時30分〜3時 観場所 十

日町保健所 担当医 石川医師 申
込み 電話で十日町保健所へ。

●三三情報(国保)

◆出稼ぎに出られる人へ 国民健康
保険の加入者で、出稼ぎのため保険
証を家族と分ける必要のある人は届
け出が必要です。●届け出に必要な
物 ①保険証②印鑑③行き先の住所
●観問合せ 市民生活課国保係 ④番窓
口へ。

◆交通事故にあつたら届け出を

交通事故など第三者から損害を受
けたときにも、国保を使って治療を
受けられます。この場合、国保が負担
した分は、後日国保が加害者に請求
することになります。

国保を使って治療を受ける場合は、
「第三者行為による被害届」を提出
してもらいます(用紙は国保係にあ
ります)。届け出がない場合、国保が
使えないこともありますので注意
ください。●観問合せ 市民生活課国
保係 ④番窓口へ。

●三三情報(税)

◆登記地目「田」を田として利用し
ていない人は届け出を ●対象 ①
登記地目が田で、現況は転作などで
永年作物(植林、果樹、アスパラ)
が植えられている土地 ②水田を放棄
し、今後水田として耕作できない
状態(かんがい、たんすい設備が壊
れているなど、水利用が困難な状
況)の土地。ただし、水田として復
旧できる状態で、現況を畑などにし
ている土地や、すでに届け出したも
のは除く(届け出には田の地番を把
握し、印鑑を持参してください)。
届け出先 12月10日(水)までに税務課
資産課係へ。

◆家屋の取り壊しや異動は手続きを
●対象 ①家屋の全部または一部を
取り壊した人 ②未登記家屋(法務局
に登記していない建物)で、売買・
贈与・相続などで異動があつた場合
等 ●観問合せ 税務課資産課係へ。

●三三情報(募集)

◆あなたの近くに「いにいちゃん」
はいませんか 第15回全国都市緑化
にいがたフェア「にいがた緑のもの
がたり'98」では、マスコットキャラ
クターと同名の県内在住の「いにい
ちゃん」を大募集しています。●募
集期間 11月1日(日)〜12月31日(水)
申込み 住民票を添えて、第15回全
国都市緑化にいがたフェア実行委員
会事務局(〒950-70新潟市新光町4
-1 新潟県庁内 ☎25-285-5511
内線3353)へ。

◆小型ボイラー特別教育講習会
●会場 日時・定員

会場	期日・時間	定員
新潟県土地改良会館	平成10年 1月21日(水) 22日(木) 9:00~16:00	50人
ポリテク センター新潟 長岡市 住3-1-1	平成10年 1月27日(火) 28日(水) 9:00~16:00	50人

注①受付は8時30分より ②駐車場はあ
りませんので車はご注意ください。
③講義中の呼び出しは固くお断りし
ます。

ゆずります ゆずってください

*消費者協会(市民生活課生活環境係)へ

品名	規格	希望価格
長テーブル7台	脚長	相談で
折りたたみ椅子25		〃
ガスストーブ2台	大	〃
オートバイ	ライアル車、170cc走行、ホンダ125cc	12万円
エレクター	2年前に購入	相談で
衣類乾燥機	サンヨー、白に黒、5年購入、数回使用	3万5千円
ヨド物置	180cm×90cm	相談で
スクーター 小豆色	ホンダ50cc 750km走行	〃
テレビ(カラー型) ビデオ一式		〃
トレーラー	耕運機用 緑色	〃
ルームランナー	自走式	無料
あんま機	いす型	〃
金庫(大型)	70×70cm、高さ110cm、60kg位	〃
ベビーベッド	木製組み立て式	〃
スタッドレスタイヤ	15インチ、アルミホイール付。(195-65)	4万円位
ゆずってください		
小型耕運機		5万円
麻の束	少々	相談で
ビデオデッキ 2台	メーカー、サイズ問わず	3~5千円
テレビデオ	メーカー、サイズ問わず	〃
子供用自転車	14インチか 16インチ	相談で
マウンテンバイク	24インチ	〃
アルペンスキー(大人用一式)	長さ170~180cm くつ24cm	3~5千円
アルペンスキー(子供用一式)	長さ140cm くつ20cm	3~5千円
〃	長さ110cm くつ18cm	3~5千円
婦人用自転車		相談で
エレキギター		〃
石取り機	白米、玄米用	〃
草刈り機	林の手入れ用	3千円

◆**回覧板の取扱いについてお願い**
市では回覧文書用に、市政事務嘱託員さんへ回覧板をお渡ししています。最近この回覧板を利用して、市と直接関係のない文書が回覧されたとの声が寄せられました。回覧板には市名などが表示してあるため、誤解を招く恐れもあります。
市でお渡しした回覧板の使用は、市でお願いした文書のみとしていただきますよう、嘱託員さんをはじめ市民の皆さんのご理解・ご協力をお願いいたします。

◆**新郵便番号案内サービス** ●実施期間：平成9年10月31日(金)～11年1月31日(金) ●取扱日時：月曜～土曜の

◆**毒キノコに気を付けて** 県では、10月13日に「キノコ中毒発生注意報」を発令して、毒キノコによる食中毒の予防を呼びかけています。

◆**移転先「クロス10」(4階)** ●業務開始日：11月17日(月) ●その他：電話・FAX番号は変わります。

◆**家族介護者教室**
～一般公開講座Ⅲ～
●日時：11月22日(土)午前9時～午後

◆**第3回共立セミナー**
●日時：12月7日(日)午後1時30分～3時30分 ●場所：公民館本館 ●参加費：無料 ●申込み：11月30日(日)までに公民館本館(☎57-5011)へ。

◆**リゾートセミナー**
●日時：11月26日(水)午後1時～ ●場所：六日町文化会館 ●参加費：無料 ●定員：200人(先着順) ●問合せ：リゾート推進室へ。

◆**受講料** 7千円(消費税含む・教材代別) ●**申込み** 申込書に受講料を添え、(旧)日本ボイラー協会新潟支部(〒950新潟市東方代町1-30新潟東方代ビル2階 ☎25-245-7535)へ。

◆**毒キノコに気を付けて** 県では、10月13日に「キノコ中毒発生注意報」を発令して、毒キノコによる食中毒の予防を呼びかけています。

◆**第3回市民書初め大会**
●日時：平成10年1月18日(日)午後0時30分～3時30分 ●場所：クロス10 ●参加費：高校生以上・千円、中学生以下・500円 ●申込み：10年1月10日(土)までに各地区公民館へ。 ●問合せ：田中澄雄(☎58-2184)へ。

◆**三館見学バスツアー**
●日時：11月30日(日)午前9時30分～ ●行き先：十日町市博物館、トミオカホワイテ美術館(六日町)、鈴木牧之記念館(塩沢町) ●参加費：大人2千円、子供1千円 ●申込み：11月20日(木)までに十日町市博物館(☎57-5531)へ。

◆**スポーツ・レクリエーション**
●**スイングスクールのプール一般開放** ●日時：日曜(午後1時～4時)、月曜～土曜(水曜休館) 午前11時～午後1時30分と午後7時40分～8時40分 ●料金：小学生以下10円、中・高校生310円、18歳以上420円 ●問合せ：体力づくりスイミングスクール(☎58-343)へ。

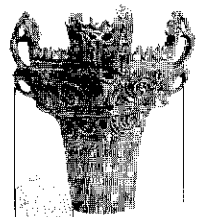
◆**移転先「クロス10」(4階)** ●業務開始日：11月17日(月) ●その他：電話・FAX番号は変わります。

◆**家族介護者教室**
～一般公開講座Ⅲ～
●日時：11月22日(土)午前9時～午後

◆**第3回共立セミナー**
●日時：12月7日(日)午後1時30分～3時30分 ●場所：公民館本館 ●参加費：無料 ●申込み：11月30日(日)までに公民館本館(☎57-5011)へ。

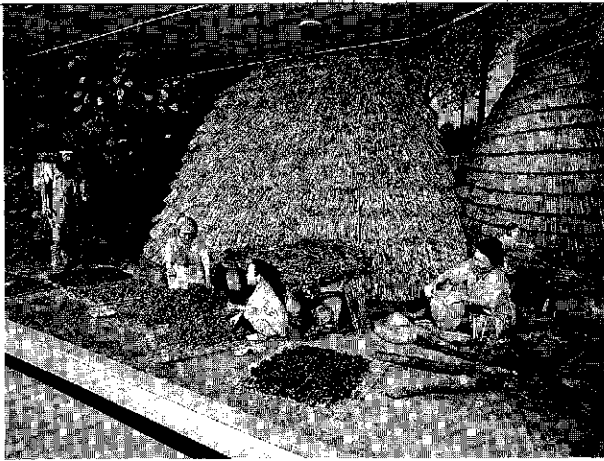
◆**リゾートセミナー**
●日時：11月26日(水)午後1時～ ●場所：六日町文化会館 ●参加費：無料 ●定員：200人(先着順) ●問合せ：リゾート推進室へ。

◆**スポーツ・レクリエーション**
●**スイングスクールのプール一般開放** ●日時：日曜(午後1時～4時)、月曜～土曜(水曜休館) 午前11時～午後1時30分と午後7時40分～8時40分 ●料金：小学生以下10円、中・高校生310円、18歳以上420円 ●問合せ：体力づくりスイミングスクール(☎58-343)へ。



十日町市史を読む ⑧

縄文時代の食へ物



縄文ムラの秋 (博物館展示)

縄文時代は、狩猟と採集の時代といわれるように、けものや魚介類をとったり、木の実を拾い集めたりして食べ物にしていました。

なかでも、木の実への依存度は意外に高く、採取するカロリーの六七%を占めていた、との推計もあります。だれでも手に入れやすく、多量に集めることができるからでしょう。

しかし、木の実の中には、そのままではアクがあり、食べら

れないものもあります。縄文時代には、すでにアクを抜く技術が生まれていました。

ドングリのアクは、煮て水にさらすだけで抜けますが、トチは灰汁で煮てアク抜きする必要があります。

木の実は、クッキーのように加工して食べていたようです。クリとクルミの粉を卵やけもの血でこね、シカやイノシシの肉を加えて発酵させ、渦巻き状に型押しをして焼いたものが出土した例があります。

木の実は乾燥し、土中に埋めて保存していたようです。市内のいくつかの遺跡から貯蔵穴が発見されていますが、直径と深さが一・五メートルもあるものがあります。

穴の中に壺が埋められていたり、クルミやクリの炭化物が見つかったりしています。最近では、木の実をねらったネズミとみられる骨が見つかりました。クリを砂に埋めて保存する方法は、縄文人が考え出した生活の知恵だったのかもしれない。

(通史編1考古 縄文時代)

とおがまち 自然



128

虫こぶ(ゴール)

山を散策していると、時ならず葉の表面に付いた植物の実のようなものを見かけます。この奇妙なものは、虫たちの産卵や摂食に伴う刺激で植物が異常生長してできた虫こぶ(ゴール)です。様々な植物に特定の虫が様々な形の虫こぶを作っています。ときにはダニ類や線虫類、細菌や菌類によっても作られることがあります。

写真は、タバコ類によって作られたミズナラの葉の表面にできた薄紅色のとともきれいな虫こぶです。虫こぶは「ゆりかご」のようなもので、その中でかえった幼虫は安全に成長できますが、寄生蜂や小鳥の餌食になることもあり、自然は甘くはないようです。

虫こぶにはタンニンが多く含まれていて、古くは皮のなめしや染色の材料、インクの材料などに利用されたといわれます。

Baby

すいかりちゃん



野上 光ちゃん 平成8年3月16日生まれ 高島2

お母さんのおなかの中にいるときから男の子だと分かっていたんだって。僕の名前は漢字一文字で、だれにでも読めるように、そして光輝く男の子に育ってほしいという願いを込めてお父さんとお母さんが付けてくれたんだ。ジャンブルジムの 希上まで上れるようになったんだぞ。

十日町市民の動き

(10月末日現在)

■人	□	44,873人 (前月比 -35)
	男	22,058人 (〃 -11)
	女	22,815人 (〃 -24)
■世帯数		12,911 (前月比 + 9)

ホットひと息 編*集*室

平成5年1月から始めた東下小学校の英語教室が、満6年を迎えようとしています。毎年秋の文化祭で成果を発表してきました。今年はいよいよ英語劇に挑戦することになり、全校参加で「大きなかぶ」を決定。先生方と相談して、せりふと登場する動物だけをこちらで決め、体の動きや鳴き声などは子供たち自身に工夫してもらうことにしました。

動きが板についてくるとせりふもうまくなり、当日は大成功でした。6年前スタートした時はまだ小さかった1年生が、今年6年生として英語劇をリードしてくれるまでになりました。子供たちの成長と英語の上達の早さに、驚きと喜びをかみしめている◎です。